

1. 商学部 アカウンタント・プログラムについて



商学部長
御船 洋

中央大学公認会計士会会員の皆様、こんにちは。はじめまして。商学部長の御船洋と申します。昨年(2001年)11月1日付けで北村敬子前学部長の後任の学部長に就任いたしました。それからちょうど1年がたちました。ご挨拶が大変遅くなりましたことお詫び申し上げます。

私は、大変運のいい学部長だと思っております。と申しますのも、今年度の公認会計士二次試験の合格者が昨年度比で35名増(約60%増)の94名という輝かしい成績を上げたからです。この成果に対する私の貢献はゼロであります。にもかかわらず、会う人会う人が皆さん、口を揃えて「おめでとう」といってくださいます。「ありがとうございます」と応えながら、面映い気がしております。

今年度の合格者の特徴として、現役合格者が激増したことが挙げられます。3年生が12名、4年生が8名、5年生以上が2名の合計22名が合格しました。なぜこれほど多くの現役合格者が出たのでしょうか。とくに3年生の場合、答えははっきりしています。3年生合格者12名全員が商学部フレックス plus 1コースの「アカウンタント・プログラム」の授業科目を履修しているのです。

このアカウンタント・プログラムというのは、商学部が2000年度から昼夜開講制(フレックス制)に移行した際、フレックス plus 1コースに設置された3つのプログラムの一つで、公認会計士、税理士、国税専門官などの職業会計人を目指す学生諸君のために、資格試験に対応した授業科目群を設け、学生諸君の希望がかなうように積極的

にバックアップするものです。商学部専任教員はもちろんのこと、経理研究所の超一流の講師陣を客員講師として招聘し、両者一丸となって徹底指導をするということづくりに高い評価を得ております。

そのアカウンタント・プログラムで勉強した第1期生が、実は、今年3年生になっているのです。果たして、彼らがどのような実績を示してくれるのか、われわれは固唾を飲んで見守っておりました。確かに、前評判は高かったのですが、結果が出るまでは心配でした。

アカウンタント・プログラムは、全国で初の試みですので、今年度の結果は、他大学の関係者をはじめ、大勢の人が注目しているはずで、結果は、大変満足すべきものでした。アカウンタント・プログラムは設置のねらいどおりの成果を上げました。

上記の結果は、商学部全体にとって非常に大きな意味を持っています。他の二つのプログラム(国際ビジネスの場に生かせる英語を身につけるための「ビジネス・コミュニケーション・プログラム」、ITを活用したビジネスの革新を担う人材養成を目指す「ビジネス・イノベーション・プログラム」)にも活気をもたらすことは間違いありません。

また、全国の高校生や受験生、およびそのご父母に対して、すぐアピールすると思います。最近の受験生やそのご父母は、「出口」を大変気にされます。中央大学商学部に入ったら、4年後にどのような進路に進めるのか、どのような就職先があるのか、そのためにどのような教育を

してくれるのか、といった点が大きな関心事となっています。われわれとしても、そういう要望に的確に応えなければなりません。その意味で、今回のビッグ・ニュースはきわめて説得的な材料になります。私は、今年度の結果を、大学説明会や懇談会などあらゆる機会に商学部の宣伝の目玉として使いたいと考えております。

今年4月に、わが国初の会計とファイナンスに特化した専門職大学院「国際会計研究科」(アカウントニング・スクール)が市ヶ谷キャンパスで開校しました。また、2004年4月には法科大学院(ロー・スクール)が開校予定になっています。商学部とこれら専門職大学院とが連携すれば、新しいタイプの人材を育成して世に送り出すことができると思います。現に、まず会計を勉強して、それからロー・スクールに進みたい

ので商学部に入學しましたという新入生が現れています。

商学部は、新しい時代に即応した優秀な人材を育てるべく、今後も努力を継続する所存ですので、皆様の絶大なご支援をお願い申し上げます。

御船 洋 プロフィール

1949年(昭和24年)岡山県生まれ。

1974年(昭和49年)横浜国立大学経済学部卒。

1979年(昭和54年)一橋大学大学院経済学研究科博士課程退学。

1979年(昭和54年)4月、中央大学商学部助手。その後専任講師、助教授を経て、現在教授。担当は財政学。

2. イタリア・ルネッサンスと複式簿記の誕生



公認会計士
齋藤力夫

ルネッサンスとルカ・パチョーリ

イタリア・ルネッサンスは主として13世紀のフィレンツェ、ヴェネチア等の都市を中心とし銀行、金融業、毛織商、貿易商などの産業が発達し、12世紀以降経済の大繁栄期を迎えた。経済の繁栄は建築、絵画、彫刻、服飾などの芸術的開花につながる。

1434年、メディチ家がフィレンツェ王国を支配、銀行業、貿易商などでヨーロッパ全域まで進出した。

イタリア・ルネッサンスの最盛期のイタリア半島のほぼ中央のアペニン山腹のサンセポルクロ市に1445年、ルカ・パチョーリ(Luca Pacioli)が生まれた。15歳から商家に住み込み、勤めのかたわら数学の才能が認められ、フィレンツェ、ローマで有名な建築家アルベルティ邸に起居し、倫理学、哲学、神学、幾何、代数を勉強し、フィレンツェの学者から評価されるに至った。

1472年、恩師のアルベルティの逝去によって神学に仕えることを決意。聖フランシスコ会修道院に入り、修道士、司祭の道を辿ることになる。また、数学等の博識も高く評価され、フィレンツェ、ローマ、ナポリの大学で数学、幾何

を教授、その成果として畢生の名作「スンマ」(Summa de Arithmetica, Geometria, Proportioni et Proportionalita)を1494年にヴェネチアで出版した。

正式には、「算術、幾何、比及び比例全書」といい、俗に「数学大全」とも言われている。この書はかなりの量で、図を除き約600ページに達する。そのうち、複式簿記については、第3部において仕訳から決算まで詳述している。

12世紀から13世紀までのヨーロッパでは、一航海や一旅商ごとに資金収支の決算をするのが主であった。しかし、商業の発展により組合制度(出资方式)が広まるにつれ、「一航海一決算」ではなく「期間損益計算」の必要性が生じてきた。スンマでは、組合会計や資本金概念を取り入れ、出資者に対する利益分配を行う上で有効な手段であったことは当然である。ルカ・パチョーリの「スンマ」は、各地で発達した簿記手法を体系的に集大成した第一歩であった。複式簿記は、損益計算書と貸借対照表の二面から経営の状態を判断できる利点が大であり、その意味で、ルカ・パチョーリを「近代簿記の祖」として、現代においても各国の会計学者の研究のもとになっている。

ルカ・パチョーリは、ミラノの宮廷や大学の講義を行い、多くの文化人と知り合い、特に、レオナルド・ダ・ヴィンチ(1452～1519年)と親交を深め、起居をともにすることも多かったが、ダ・ヴィンチに、ユークリッドの幾何原論などを教えている。

ダ・ヴィンチはパチョーリの影響を受けているが、絵画、彫刻などで世界的芸術家の名を残したことはご承知のとおり。

1497年、パチョーリはミラノで「ディヴィナ」(聖なる均斉)を出版。ダ・ヴィンチが図や挿絵を担当した。15世紀はメディチ家のフィレンツェ支配から16世紀の宗教改革などがイタリア・ルネッサンスの開花期と考えるとよいと思う。ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」(1498年、フィレンツェ・サンタマリア教会の壁画)の透視画的技法や、その後の「聖アンナと聖母子」(1506年、フィレンツェ)にみる円錐型画法及び多くの人体解剖図に、ユークリッドやパチョーリの影響を見ることができる。

その後、ミケランジェロ(1475～1564年)が頭角をあらわし、ダ・ヴィンチを強く意識し、有名な彫刻「ピエタ」(1498年、ローマ・サンピエトロ寺院)、「ダヴィデ」(1501～4年彫刻、フィレンツェ)が生まれた。

ルネッサンスの繁栄は、ドイツのグーテンベルグ(1397～1468年)の可動式印刷機の発明も多大な寄与をしている。グーテンベルグは、当時で多額な資金(借金も多かった)を投入し、1438年鉛活字による印刷機を考案し、従来の木版印刷に革命をもたらした。その最初はローマ教会な

どカトリック教会からの聖書印刷や免罪符の印刷が主であったが、学術書では「スンマ」が最初で最大である。その後、マルチン・ルター(ドイツ)の宗教改革が起り、カトリックに対する反乱でプロテスタント派誕生の徴候となる。

帳簿の初めに十字架を・会計学の倫理を説く

パチョーリの簿記法は、日記帳、仕訳帳、財産目録を設け、日記帳を更新する場合、帳簿の第1ページに神聖なる十字架を付し、記帳することを説いた。さらに、帳簿のバランス合計に「神の賛美と栄光のために」と記することをすすめている。つまり、宇宙の秩序は、神に誓うことが前提であり、会計処理及びその結果たる財務書類は、適正かつ神聖なものでなくてはならないとしている。現在、公認会計士監査の倫理観が叫ばれているが、パチョーリの簿記を原点として計算書類の真実性を学ばなければならぬと感じている。

パチョーリは、司祭のかたわら学者として名声があり、ローマ教皇レオネ10世の招聘でローマ神学大学(Sapienza)の教授を拝命、その後サンセポルクロ修道院総長代理を務め、1517年72歳で多才な人生を閉じた。

イタリアでは、1994年、パチョーリのスンマ出版五百年祭を行い、同年東京のイタリア大使館主催で同じく五百年祭記念シンポジウムが開催された。私はその際、「ルネッサンスとパチョーリ」というテーマでパネラーの榮にあずかったことを感謝している。

3. 「第16回世界会計士会議報告」

－知識に根ざした会計士を目指して－

公認会計士

三宅 博 人

去る11月18日(月)から21日(木)にかけて、香港コンベンション・アンド・エキジビジョンセンター(香港会議展覧中心)において、世界会計士会議(共催:国際会計士連盟(IFAC)、香港会計士協会(HKSA))が開催された。100年以上の歴史を持つIFACだが、中国での開催ははじめてのことである。世界各国から5,000人近くの参加者(日本からも400人以上が参加)が集い、テーマ「知識に

根ざした経済および会計士」へ向け、有意義なスピーチ、セッション、ワークショップが展開された。また、中国の朱鎔基首相も参加されたが、講演される大会初日はさむ、前後数日を会場に隣接したグランド・ハイアット・ホテルに宿泊されたため、ホテル・会場ともに文字通り、空港さながらの厳戒態勢が引かれ、一種独特な雰囲気をかもし出していた。



世界会議に参加の
藤沼重紀先生

大会中の主な日程を振り返る。18日は、登録受付の後、17:30から2時間ほど、カクテルパーティーが催され、明日からの本大会の成功を祝しての乾杯が行なわれた。その後、ホテルのディスコ&バー「JJS」をお借りしての懇親会(主催:中央大学公認会計士会)を開

催した。中大OBを中心に40名近くの方が参加された。藤沼先生は、大会スピーカーのミーティングディナーご出席の関係上、21:00過ぎの到着となったが、その間、木下中大公認会計士会会長の艶やかな舞?で、雑投するなど、大変な盛況であった。

19日は、オープニングセレモニーとして、朱鎔基首相をはじめ、香港特別行政地域(SAR)最高責任者、香港会計士協会会長、本大会組織委員長等が基調講演を行なった。朱首相のスピーチは、ファンファーレも高らかにその登場の華やかさもさることながら、会計を軸に民営化と国際化を推し進めんとする21世紀の壮大な国家戦略が語られており、聞くものを圧倒する迫力に満ちたものであった。その後、Plenary Session 1「知識に根ざした経済における会計士・会計の再定義」と題して、中国財務大臣はじめ、元FRB議長、Rene Ricol氏(IFAC新会長)、IASB議長、藤沼先生等が講演を行なった。午後は、知識管理文化、テクノロジー、監査人の再創造一拡大する保証範囲、グローバルな規制当局への取り組み、知識に根ざした経済への組織改革、をテーマに5つのワークショップが行なわれた。夜は、カクテルパーティー&ガラディナーが催され、ダンス、楽器など趣向を凝らした様々なアミューズメントと美味しい食事を楽しみながら、あっという間の4時間を過ごした。

20日は、午前中は、Plenary Session 2「知識に根ざし

た経済における会計士の成功に向けての、IFACの新しいイニシアティブ」と題し、藤沼先生が司会をされ、IFACの教育、倫理、監査・保証、公会計、財務・管理会計などの委員会の議長がそれぞれ現状の取り組みと展望等について講演を行ない、午後はそれらを振り返る形で5つのワークショップが展開された。

最終日の21日は、Plenary Session 3「知識に基づいた経済において会計士が達成できる実務上の問題」と題し、香港SFC会長がコーポレート・ガバナンスの実効性を高める会計職業人のあり方について、AAA(米国会計学会)会長が会計士の生涯教育について、中国SRC会長が、インターネット時代における証券市場規制について、CPA オーストラリア会長が、オーストラリアでの会計士の現状と未来に向けての人材養成計画などについて熱弁を揮われ、それらに基づき3つのワークショップが行なわれた後、華やかな閉会式で幕を閉じた。次回の開催はトルコのイスタンブールとのことである。

これまで、私自身いくつかの国際会議を経験してきたが、会場、人数、内容、スポンサーのイキジビョンブスの数など、いずれをとっても度肝を抜かれるものであった。また、今回の私の参加は、JICPA ジャーナルや、経営財務(税務研究会)誌などの取材を兼ねてのものであったが、各スピーカーとも非常に紳士的であり、資料等を進んで提供していただいたことに感謝したい。

最後に、114カ国、156団体、250万人のIFACの会長としてリーダーシップを発揮された藤沼先生に心からのねぎらいのお言葉をお送りしたい。氏の足跡、金字塔は未来永劫語り継がれることであろう。あらためて、敬意を表するとともに、グローバル社会における知識に根ざした経済及び会計士の発展に向け、その捨石とならんとの意を強くした次第である。

『公認会計士大学対抗ゴルフコンペ(十月会)』に中央大学が優勝

今年度当番幹事 公認会計士

増田 浩二

毎年10月に公認会計士の「大学対抗ゴルフコンペ十月会」が開催されている。

十月会については、既に当会報No.4に紹介されたが、今年で第15回を迎える伝統的行事である。

また、大学対抗であるため、出場者には母校の代表と

しての競争意識と連帯感があり、独特な雰囲気をもつ競技会となっている。

今回も、千葉県茂原市のグレートアイランド倶楽部で、17大学から114名が参加する盛会ぶりであった。

前年の十月会では、中央大学は団体戦でなんと最下

位という戦績であった。これは、その後の1年間我々にとって忘れられない屈辱であった。今年こそはとの思いを抱いて、中央大学から17名の腕自慢(自称かもしれないが)が出場して、大奮闘した。

その結果、次のような素晴らしい戦果が得られた。

団体戦 優勝	ネット平均 71
個人優勝者	阿部紘武氏(中央大学)
	グロス 74、ネット 69.2

他大学の結果の一部を紹介すると、

団体戦 2位	専修大学	ネット平均 72
3位	東京大学	72.4
4位	一橋大学	
5位	早稲田大学	

優勝祝勝会は、12月18日六本木のレストランで賑やかに開催する予定であるが、大いに盛り上がると思われる。

今回の参加者は次の方々である(敬称略、成績順ではありませんので、念のため)

阿部紘武、飯野雪男、井上繁、川和浩、黒田克司、小出博、櫻井欣吾、櫻井嘉雄、佐野慶子、沢山良一、高瀬正行、福田眞也、宮野定夫、宮本嘉興、森谷伊三男、芳井誠、増田浩二

(この他、宮内忍氏は参加予定であったが、当日やむを得ない事情により欠席された)

100名を超える公認会計士の集まる会であり、懇親を深めるに絶好の場となっているので、今後もより多くの方々に参加されることを希望する。

「全日本実業団対抗ゴルフ選手権大会」 決勝大会に出場して

平成14年10月6日にビジネスマン・ゴルフ大会の最高峰である「全日本実業団対抗ゴルフ選手権大会」の決勝大会が行なわれ、私も朝日監査法人チームのメンバーとして初めて決勝大会の雰囲気を感じました。

そこで、この大会の概要と奮戦の様相をここにご紹介させていただきます。

1. 出場選手選抜社内予選会の実施

朝日監査法人のゴルフクラブは、実業団対抗ゴルフ大会の決勝進出を目標に、難コースといわれるゴルフコースのバックティからの練習ラウンドを積み重ねています。

この1年間でも龍ヶ崎CC(7012ヤード)、大洗GC(7190ヤード)、GC成田ハイツアー(7248ヤード)で腕を磨きました。

そして、予選大会への出場者4名を決定する社内予選会を6月22日に大会会場である鳳琳カントリー倶楽部(7018ヤード)において1.5ラウンドのプレーで行いました。

公認会計士

高山 康 明



2. 予選大会

鳳琳カントリー倶楽部は、加山又造画伯がインテリアを監修したクラブハウスの優雅さとは対象にゴルフコースは7000ヤード超と長く、コースの特徴としては①フェアウェイは広く、②グリーンは横ひょうたん型の大きなワングリーン(ペント)でアンジュレーションがあり速く、③ロングホールは平均558ヤード、④ミドルホールは平均402ヤード、⑤ショートホールは平均190ヤードあります。



スタートホールで注意事項、ボールの確認、スコアシート
の配布等が行われ、続いて「○○の○○さんティーアップ
をお願いします。」の合図でスタートとなりました。このアナ
ウンスによって、これは通常のゴルフコンペではなく法人を
代表してプレーするのだという実感が湧いてきて緊張感が
一層高まります。

当日は炎天下で、日陰の少ないコースのため絶えず汗
が滴り落ち、おまけにOKバットがなく(当然ではあるが)、
グリーンが速く短いバットに慎重になるためグリーン上で
のプレッシャーは相当なものとなり、プレー中はほとんど会
話も無く淡々とプレーをします。

スコアカードには指名同伴者のスコアを記入、トラブルに
立会いドロップ、リプレイス等の確認、ホールアウト後のアテ
スト手続など自分のプレー以外でもかなり神経を使います。

プレー終了後、表彰式が行なわれ順位が発表されまし
た。「第5位朝日監査法人233」と発表され、我々4名が立
ち上がると会場からは「おおー」という驚きの声と拍手が
起こりました。Dグループ22社のうち第5位(3名が70台
のスコア)と堂々の成績でした。

他の出場チームは見るからに学生時代にゴルフ部に所
属していたか、クラブチャンピオンの経験者というようなメン
バー構成でしたが、わがチームは監査法人に入社してから
始めた真のビジネスマンゴルファーであることを考慮する
とまさに快挙でした。

ともかく、暑く長い一日でしたが、決勝大会への出場権
(初出場は38社中6社でした)が出場5回目ですべて得
られました。

3. 決勝大会

会場に着くとテレビ局のスタッフがせわしく動き回って
おり、ハウス前には出場チームのメンバーごとに各ホールの打
数が記入される大きなスコアボードが設置されていました。

受験生活を振り返って

今回3度目の受験でようやく公認会計士第二次試験に
合格することができ、本当に嬉しく思っています。

私が公認会計士という資格を知ったのは中学生の時、

日本を代表する大企業チームの中に監査法人が1社入っ
ていることに5年間でよくここまで来れたなと感無量でした。

いよいよスタートとなり、テレビカメラが斜め前から、周りには
ギャラリーが見つめる中緊張のティショットはまずまずでした。

予選大会に比べるとグリーンがかなり速くなっており、
1mくらいすぐにオーバーしてしまい、この返しのバットにブ
レッシュャーがかかります。予選大会は決勝進出を目指し必
死でプレーするためか、皆言葉少な目でありましたが、決
勝大会は毎年出場しているチームが多く、参加メンバーも
どこか余裕があり(自信があるのかも)、会話はさみなが
ら楽しくプレーできました。

決勝大会は18ホールをスルーでプレーするため、途中で
職場の方や家族から軽食や飲物の差し入れが行なわれて
いたチームもありましたが、わがチームは初出場でギャラリ
ーもなくお腹を減らしながらのプレーとなってしまいました。

最終ホールは各人の後ろにハンディテレビカメラが移動
してきて、またグリーン周りには多くのギャラリーが見守
る中、池越えの160ヤードをピン横3mにつけパーでホール
アウトできました。

やはり、決勝大会出場チームはレベルが高く、距離のあ
るこのコースで良いスコアで回るためには、まずティショッ
トをフェアウェイに置くこと、次にバットをいかに真っ直ぐに
打てるかだと痛感しました。また、皆さんゴルフマナーもす
ばらしくグリーンにあがるときは自分のボールマーク以外の
ものも熱心に直し、ナイスプレーには声をかけてくれます。

プレー終了後、表彰式が行なわれ、団体と個人の第1
位から第3位までに、金、銀、銅の各メダルが授与され、
我々は「2002年FINALIST」と印字された記念バッジを
いただきました。

50歳を過ぎてこのような雰囲気の中でゴルフができた
ということが一番の感激でした。また、次回の大会に向け
練磨しなければという想いを胸に会場をあとにしました。

商学部金融学科2002年3月卒業

佐藤 研一郎

祖父からこの資格について聞いた時でした。しかし、大
学に入学し経理研究所のパンフレットとそのガイダンスに
おける小島先生のお話を聞いて忘れていた記憶がよみが

えり、お話を聞いているうちになんだか魅力的な資格なのだ
と認識し、経理研究所に入り受験生活が始まりました。

一年生の11月まで、授業時間がそこまで多くないため
比較的順調な受験生活が始まりました。しかし、二年生の
夏休みくらいから授業時間が増え、さらに早朝答練も始
まり精神的にも肉体的にも勉強すること、さらに言えば机
に向かうこと自体に苦痛を感じ始めるようになりました。そ
の主原因は勉強をしたとしてもどこにも合格するという保
証がないことだったと思います。そんなことで早朝答練を
欠席することが次第に増え、ほとんど欠席するようになって
しまいました。しかし、それでも何とか一度目の受験まで
こぎつけましたが、昼まで寝ているという生活を送って
いたせいで絶対的な勉強時間が足りず落ちてしまいました。

二度目の受験では、そんな一度目の受験生活の教訓を
生かして、次こそは絶対に受かろうと朝早く起きて勉強時
間を確保しようと心がけました。しかし、またしても次第に
墮落した生活が始まってしまいました。そんなこんなで二
度目の受験を終え、蓋を開けてみれば一緒に勉強してい
た友達のほとんどが合格してしまい、さらには高校や大学
の友達も就職の内定をもらっており、今後受験を続けるか
どうか迷いましたが、いまさら就職活動しても雇ってくれ
る企業などないこと、及び今やめたら後悔すると思い受験
生活を続けることを決心しました。

受験生活を振り返って

私が公認会計士という資格を知ったのは、大学に入学
してからのことでした。

大学受験の時は、ただ漠然と「会計関係の道に進みたい
」という思いで、会計学科を志望したものの、具体的な
将来像は見えておらず、大学入学後、「とりあえず簿記1
級くらいは取っておこう」という気持ちで経理研究所に入り
ました。そこで、講師の方から、公認会計士という職業は、
男女差別なく、女性にとってもよい職業であると感じ、
目指そうと思いました。

ところが、実際、勉強を始めてみると、つらいことばかり
でした。私は、2時間弱かけて実家から大学に通っていた
ため、大学付近に一人暮らしをしている人と比べて、机

三度目の受験生活では友人の大多数が社会人になっ
ており、なんだか遅れをとっているような気がしてそれがよ
いモチベーションになった気がします。三度目の時はどれ
だけ勉強すれば受かるのか、さらには本番の問題次第で
はどうなるかわからないということが不安でした。しかし、
なるようになるといったように考えることができ、精神的に
多少楽になった気がします。そしてなんとか合格発表の
掲示板に名前を載せることができました。

今考えると、いろいろなことを理由に勉強することを拒
んでいた気がします。特に、勉強したとしても合格すること
の保証がどこにもないという後ろ向きなことをあれこれ考
えることはかえってマイナスの力となり、良い方向には絶対
に進まないということを思いました。また、踏み込んでやっ
てみることの大切さをこれまでの受験で学んだ気がしま
す。またこの生活を通して、継続することによる地道な積
み重ねの力の大きさに驚くとともに、その大切さをも学ん
だと思います。この受験生活を通して一生の財産を得た
気がします。

最後になりますが、これまで私のことを支えてくださった
諸先生方、諸先輩方、友人に対し心から感謝しています。
この気持ちを一生忘れることなく今後も日々精進してい
きたいと思います。本当にありがとうございました。

商学部会計学科4年

杉山美希

に向かって勉強している時間が少ないような気がしてい
ました。そのことが、自分を不安にさせていたのです。また、
大学の授業も疎かにしなくなかったので、受験勉強と両立
することも大変でした。しかし、それ以上につらかったの
は、1回目の論文式試験の直前でした。それまでずっと一
緒に同じ目標に向かって頑張ってきた友人たちが短答式
試験に落ちてしまい、そのショックと一人で挑戦することの
辛さから試験直前にやる気をなくしてしまったのです。そ
の結果、試験はもちろん不合格でした。正直悔しかった
です。試験に落ちたことも悔しかったけれど、何より自分自
身に負けたことが悔しかったのです。その時、「来年は絶対
合格してやる!」と決意しました。

そして、それまでの不安や辛さを打ち消すために、2年目は必死に勉強しました。人より勉強する時間が少ないことを「不利」と感じずに、逆に限られた時間を上手に使うと思いました。短時間集中してより内容の濃い勉強をし、電車に乗っている時間も勉強時間に充てました。黙々と勉強している間は、自分自身が伸びているかどうかはわかりませんが、人と競って成果が数字で表されるたびに伸びている実感が湧き、それが次第に自信になっていきました。そして、その結果、今回2回目の受験で現役合格することができました。

今思うと、不合格に終わった1年目と比べると、やはり2年目は自分の気持ちあるいは意識といったものが全然違

った気がします。本気で会計士試験に合格したいと思ったし、絶対合格できると思って毎日勉強していました。だから、公認会計士を目指そうと思っている方、実力はどれくらい自分自身に負けない強い気持ちを持って勉強してもらいたいと思います。そうしたらきっと合格できると思います。

最後になりましたが、私をずっとサポートしてくれた経理研究所の講師・スタッフの方々、ご指導ありがとうございました。そして、私がここまで頑張ってきたのは、家族の理解と協力があったからだと思っています。本当にありがとうございました。これからは、社会から信頼される公認会計士になれるよう努力し続けていきたいと思っています。

平成14年度事業計画（平成14年4月から平成15年3月まで）

- | | | | |
|------------------------------------|------------|--------------------------|----------|
| 1. 中央大学講演会講師派遣
経理研究所主催
商学部主催 | | 4. 商学部卒論発表者に対する
講評者派遣 | 平成14年12月 |
| 2. 研修会、総会及び懇親会 | 平成14年6月21日 | 5. 会報の発行 | 平成14年12月 |
| 3. ゴルフ等懇親行事 | 平成14年10月 | 6. 会員名簿の改訂版発行 | 平成14年12月 |
| | | 7. 研修会及び新年会 | 平成15年1月 |

平成13年度収支決算及び平成14年度収支予算（単位：千円）

I. 収入の部	平成13年度決算額	平成14年度予算額
1. 会費収入	1,506	1,600
2. 総会懇親会収入	654	500
3. 講演会等行事収入	241	300
4. 同好会収入	0	0
5. 受取利息	1	1
収入合計	2,402	2,401
II. 支出の部		
1. 総会関係支出	584	600
2. 講演会等行事支出	664	700
3. 会報関係支出	164	200
4. 学生奨学関係支出	487	600
5. 対外関係支出	40	200
6. 事務費用	1	100
7. 雑支出	1	50
支出合計	1,941	2,450
当期収支差額	461	△49
前期繰越金	942	1,403
次期繰越金	1,403	1,354

会費振込のご協力ありがとうございました。本年度もよろしくお願いします。

以上

平成14年公認会計士第二次試験 出身大学別合格者数

1位	(1)	慶應義塾大学	183名	7位	(6)	神戸大学	38名
2	(2)	早稲田大学	140	8	(8)	京都大学	37
3	(4)	中央大学	94	9	(9)	同志社大学	32
4	(3)	東京大学	75	10	(10)	関西学院大学	28
5	(6)	一橋大学	54				
6	(5)	明治大学	39				

()は前年順位、日本公認会計士協会の調査による

平成14年公認会計士第二次試験合格者

経理研究所関係 (72名)

氏名	学部・学科	在・卒
中島 高宏	商・会計	3年在学
柳瀬 洋	経・経済	3年在学
横田 昌彦	商・会計	3年在学
中村 英敏	商・会計	3年在学
井上慎太郎	商・会計	3年在学
家田 健	商・金融	3年在学
山本 恭子	経・経済	3年在学
日置 敏之	商・会計	3年在学
柘植 幹雄	商・商貿	3年在学
鈴木 俊彦	商・会計	3年在学
平澤 優	商・金融	3年在学
海老根佳紀	商・会計	3年在学
友廣 真也	商・会計	4年在学
植木 貴宣	商・会計	4年在学
上西 貴之	商・金融	4年在学
猪狩 亜紀	商・会計	4年在学
武田 幸三	商・会計	4年在学
杉山 美希	商・会計	4年在学
石田 昌弘	商・会計	4年在学
井伊 弘明	商・会計	4年在学
石原 弘貴	法・法律	5年在学
酒井 一弘	商・会計	5年在学
小形 剛央	商・会計	02.3卒
山岡 正人	経・経済	02.3卒
中川 寛将	商・会計	02.3卒
坂巻健二郎	商・経営	02.3卒
佐藤研一郎	商・金融	02.3卒
西澤 健一	経・経済	02.3卒
神田 隆博	商・会計	02.3卒
朴 明花	商・会計	02.3卒
松田 誠	商・会計	02.3卒
小倉 伸太	法・法律	02.3卒
青木 幹雄	商・会計	01.3卒
和田 壮司	商・会計	01.3卒
平田 賢二	商・商貿	01.3卒
坂本衣布輝	商・経営	01.3卒

氏名	学部・学科	在・卒
加藤 雅則	法・法律	01.3卒
松田 隆志	経・経済	01.3卒
渡邊 和美	商・会計	01.3卒
小宮 広子	商・会計	01.3卒
三浦 良介	商・会計	01.3卒
中村 浩之	商・会計	01.3卒
後藤 謙太	商・商貿	01.3卒
永川 隆一	商・会計	01.3卒
五島 淳	商・会計	01.3卒
菅 伸治	商・経営	01.3卒
大和田慎介	商・経営	01.3卒
高橋 稔	経・国経	00.3卒
小林 孝史	経・経済	00.3卒
丸山 貴生	商・経営	00.3卒
小笠原京子	商・会計	00.3卒
石田 一秋	経・国経	00.3卒
愛甲 倫大	商・金融	00.3卒
西澤 高陽	商・経営	00.3卒
山岸 朝典	商・商貿	00.3卒
江原 正樹	商・会計	99.3卒
峯尾 商衡	商・会計	99.3卒
町田 久子	商・会計	99.3卒
人見 泰平	商・会計	99.3卒
塚越 学	経・公共	99.3卒
笹崎 俊行	経・産経	99.3卒
杉本 拓司	商・会計	99.3卒
大竹 義紀	商・会計	99.3卒
田中 莊治	商・会計	99.3卒
宮川 業月	商・会計	99.3卒
楠瀬 朱美	商・金融	98.3卒
宮崎 智尚	商・会計	98.3卒
稲葉 充久	商・会計	98.3卒
中村 慎吾	法・国企	98.3卒
神谷 隆行	商・会計	97.3卒
鬼木喜一郎	商・会計	96.3卒
鬼澤 裕彦	商・会計	95.3卒

経理研究所関係以外 (22名)

氏名	学部・学科	在・卒
本村 憲二	法・法律	02.3 卒
佐藤 貴之	商・金融	01.3 卒
原澤宗太郎	経・経済	01.3 卒
丸谷 治	法・法律	00.3 卒
山中 真	商・商貿	00.3 卒
加藤 知余	法・政治	00.3 卒
片山 令史	法・法律	00.3 卒
今泉 敬司	経・産経	99.3 卒
山田 朋宏	商・商貿	99.3 卒
井上 紀子	法・国企	99.3 卒
伊藤 裕之	法・政治	99.3 卒

氏名	学部・学科	在・卒
恩田 良貴	経・経済	99.3 卒
平田 祐介	法・政治	99.3 卒
深澤 太郎	商・会計	98.3 卒
櫻井 将水	商・経営	98.3 卒
渡邊 勝彦	商・会計	97.3 卒
赤澤多計志	経・経済	96.3 卒
木村 滋	商・会計	96.3 卒
田口 直美	商・会計	94.3 卒
根本 恵美	経・産経	92.3 卒
宮崎隆市郎	商・会計	92.3 卒
山本 幹夫	法・法律	89.3 卒

編集後記

後 藤 徳 彌

中央大大学公認会計士会報「絆」の第9号をお送りします。忙しい中ご寄稿いただきました先生方に厚くお礼申し上げます。

今回は巻頭に、昨年11月北村先生から商学部長を引き継がれた御船先生に「商学部アカウント・プログラムについて」というタイトルで寄稿していただきました。先生も記載されていますが、我中央大学は公認会計士第二次試験で今年は合格者が前年比35名増の94名と大飛躍をし大変喜ばしいことであり、関係者のご努力に感謝するとともに、OBの一人としては是非来年は三桁の合格者をお願いしたいと思います。

又公認会計士大学対抗ゴルフコンペ「十月会」では中央

大学が団体戦に優勝し、又個人戦でも阿部先生が優勝され是非来年も「継続性」に従い団体及び個人戦とも優勝して頂きたいと思います。

「絆」の記事は毎回会長及び幹事長の編集方針に従い関係者の皆様に寄稿をお願いしていますが、今回は幹事長の提案で「記事」の公募(?)を実施したところ、齋藤先生より「イタリアル・ルネッサンスと複式簿記の誕生」というタイトルで申し出を頂き編集人としては大変感謝しております。今後会員の皆様から日頃の研究成果又は趣味等の投稿を積極的にお願いしたいと思います。

来年も会員の皆様が今年同様一層ご活躍されることを期待します。

中央大学公認会計士会報 No.9

平成14年12月1日発行

発行人 中央大学公認会計士会会長

木 下 徳 明

発行所 〒162-8473 新宿区市ヶ谷本村町42-8

中央大学経理研究所気付